

デブリンと小デブリンの河合ちゃんとマキリンに関してスゴイ情報が飛び込んできました。その中には、とても許せない。いや、許してはいけないひどい情報もあります。これは、見ていただければわかりますが内部告発です。

ソフトウェア製作所事件がそれです。詳細については、別紙に記載されている通りですが、この事件では、創業社長の命まで奪っているのです。この中で出てくる元 TMI 法律事務所の白井勝己弁護士とは、旧野村財閥を作り上げた野村徳七の末裔らしく、場面によって野村姓と白井姓を使い分けています。今回の件で弁護士会に懲戒請求されましたが野村の意向で懲戒を逃れたとか。使い分けていると言えば、マキリンも野口姓と金田姓を使い分けています。また、債権者破産を仕掛ける方法は、マキリンの偽装破産とまったくやり方は同じです。しかも、この白井弁護士もアメリカンクラブの会員であります。今回のマキリンの偽装破産は脚本、演出、主役とすべて河合ちゃん、マキリン、白井弁護士らが自ら行っている自作自演なのです。

南青山 UR の件でももう一つスゴイ情報があります。この土地に建物を持っていた南青山ゼストワンという会社があるのですが、この会社の代表者がいつの間にかマキリンになっています。しかもこの会社は、勝手に建物を売却したとして刑事告発されているのです。この会社を乗っ取る方法は、河合ちゃんからの指示でマキリンが実行したものです。

このように河合ちゃんの仕事のやり方はあくど過ぎて同じ PAG グループの PAG インベストメント（セキュアードキャピタル）は再上場を目指しているんですが、グループ内部の人達からは再上場を目指しているのに河合ちゃんがこんなやり方をしているから、レピュテーションが下がって大変だと煙たがられています。

六本木ランディックビルの案件での内部情報です。これは、茨城に本社を構える解体屋の田崎という会社が、ビルの 65%を購入するところから始まります。ビル全体を持っているわけではないので、金融機関の融資がつきにくく、また簡単に売却できるものではありません。ここからは内部情報なのですが、初めから河合ちゃんは融資が返済できないと考えて、このビルの乗っ取りを仕掛けました。わずか半年の返済期限として融資をしたのです。しかも返済できないときは自動的に PAG になるものとして。簡単に売却できないものだから、当然 PAG に物件は移るわけですが、この契約のときにダミーの仲介会社を入れて支払った仲介手数料が河合ちゃんにバックされています。しかもこのビル、1 棟全部じゃなくて 65%しか買えていない虫食いの建物で、残り 35%買える目安が無いのに自分でお小遣い欲しさに無理やり購入を決めました。これには、PAG 内部からも疑問の声があがっています。しかも今度は隣接する六本木富士ビルも買収したのです。これも手数料の不正が必ずあったはずですが。これについては、今後追いかけていきます。買収により新たに代表に就任したのは寺崎公彦氏。この寺崎氏、調べてみると、新橋にある経営戦略合同事務所 (KSG) という会社の専務取締役であったのです。KSG といえばあの南青山 UR の案件で房園氏から建物を購入していることが分かりました。富士ビルの元々の簿価は 1 億しかないのにど

うやって買収をしたのか。この六本木ランディックビル、富士ビル案件は相変わらずマキリンが自分の物のように持ち歩いています。

UR 中島正弘理事長、UR を管轄する国土交通省石井啓一大臣、南青山 UR の土地は早く買い戻さないと第 2 の森友事件になります。

小池百合子東京都知事、破産管財人高島希之弁護士、マキリンの宅建業免許を早く取り消さないと被害者がどんどん増えていきますよ。

マキリンの偽装破産も河合ちゃんの南青山 UR の件も刑事告発の動きがあるようです。

河合ちゃん、マキリンはもうレッドラインを超えてしまったようです。

5月29日のマキリンの債権者集会が楽しみです。どのくらい集まるのでしょうか。